

OIL & VARNISH

クサカベ画用液





OIL & VARNISH

油絵を描くという、絵具を筆につけ、キャンバスにのせる作業を思い浮かべます。もちろん絵具の大切さはいうまでもないのですが、見逃すことができないのが「画用液」の重要な役割です。画用液の選び方や使い方次第で、作品の仕上がり具合が大きく違ってきます。思い通りの絵にするのも、また絵具を使いやすくしたり、キャンバスに絵具をしっかり定着させるのも、さらに作品を保存するうえでも、画用液の使い方がキーポイント。だれでも、目的に合わせた使い方を知っていれば、作品の質をより高めることができます。クサカベの画用液は、初心者向きのペインティングオイルから特殊用途の素材まで、最高級の品質を用意しています。



ISH

CONTENTS

クサカベ画用液の構成図……………4

画用液の基本的な使い方……………6

画用液の効果的な使い方……………8

画用液を初めて使う人へ……………9

画面の乾燥……………10

画面のツヤ……………10

透明性について……………12

画面の保護……………12

画面の修正と修復……………13

その他画用液の特長……………13

■テクニカル情報

光沢の出し方……………11

グレースを重ねる方法……………12

テンペラと油絵具の併用……………14

金箔の貼り方……………15

問題発生時の原因と注意点……………17

絵具・画用液の取扱い注意……………18

価格表……………19

OIL & VARNISH

クサカベ画用液の構成図

マスチックバニス P14

ダンマルと同等の使用目的であるが、絵具にのびの良さを与えることから、細密描写に有効。光沢ややソフト。

ダンマルバニス P14

伝統的な樹脂溶液で、絵具に光沢と絵具ののりの良さを与える。各種ニス、テンペラ技法用画用液の処方に利用。

リンシードオイル P6-7,13

固着力・塗膜強度にすぐれた乾性油。ペインティングオイルを作る際の基本素材といえる。黄変傾向やや強い。

ポピーオイル P13

淡色で黄変しにくい乾性油。塗膜強度はリンシードに劣り乾燥も遅い。その性質上、明色の仕上げ描きに有効。

スタンドオイル P11,13

加熱加工されたリンシードオイル。粘性があり、乾燥後の塗膜は強じんして光沢に富む。

サンシクンド

リンシードオイル P13

粘性があるが絵具ののびを良くし、乾燥も早い。強じんな光沢画面となる。古典技法によく用いられる。

ブラックオイル P13

西洋古典絵画等に用いられたこの画用液は、乾燥が早く、光沢があり絵具と混ぜると伸びがよくなる。

ベネチアテレピン P11,14

光沢と透明感のある塗膜を形成し、グラス用画用液の材料によく使われる。乾燥やや遅く、黄変性あり。

テレピン P6-7,9,14

油絵具・画用液の薄め液。濃度と流動性(サラサラ感)の調節に使われる。揮発性。

ペトロール P6-7,9,14

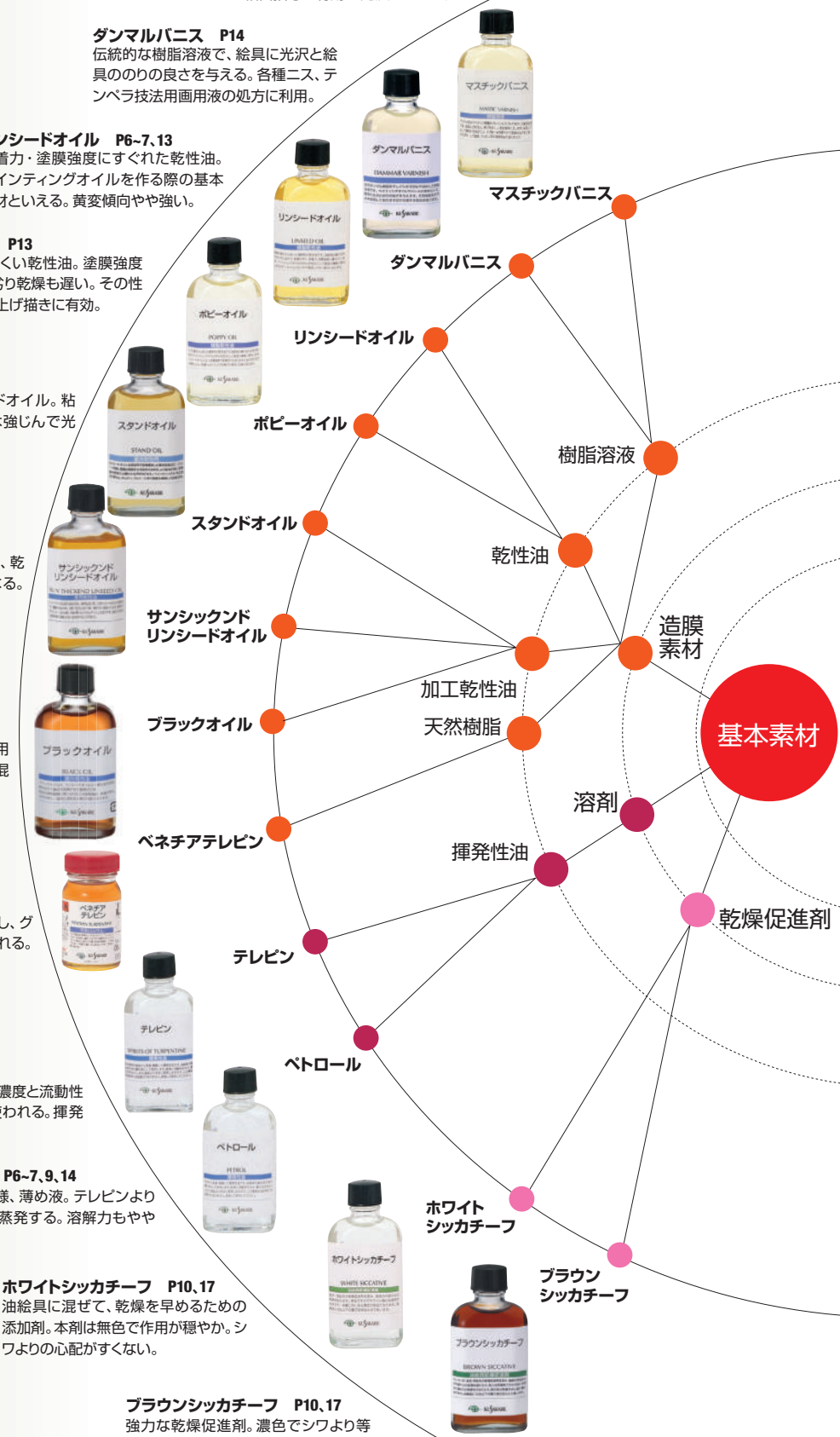
テレピンと同様、薄め液。テレピンよりやや穏やかに蒸発する。溶解力もやや穏やか。

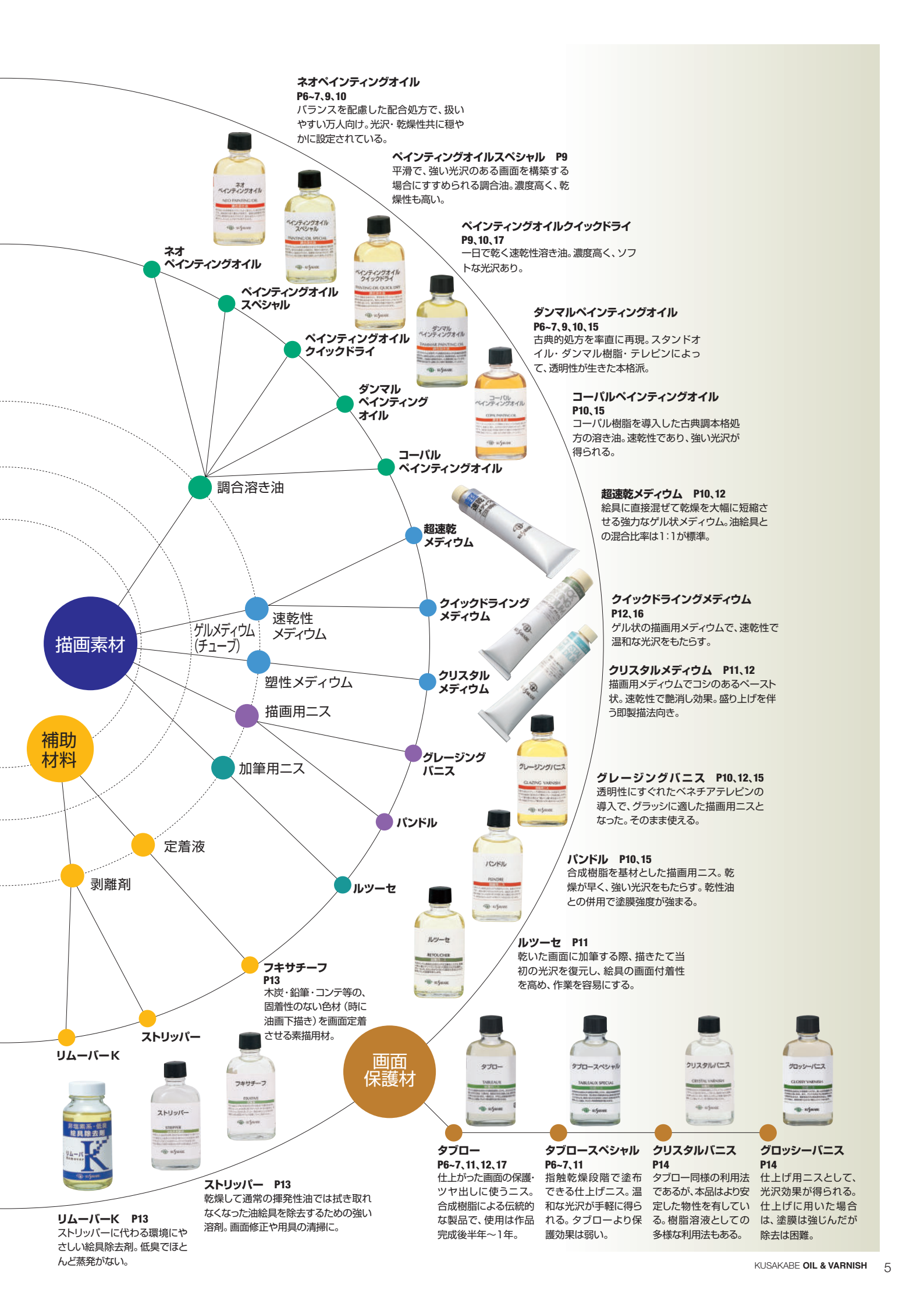
ホワイトシッカチーフ P10,17

油絵具に混ぜて、乾燥を早めるための添加剤。本剤は無色で作用が穏やか。シワよりの心配がすくない。

ブラウンシッカチーフ P10,17

強力な乾燥促進剤。濃色でシワより等の副作用の危険もあるが、適切な使用法をすれば効果大。





ネオペインティングオイル

P6~7、9、10

バランスを配慮した配合処方、扱いやすい万人向け。光沢・乾燥性共に穏やかに設定されている。



ネオペインティングオイル



ペインティングオイルスペシャル



ペインティングオイルクイックドライ



ダンマルペインティングオイル

ペインティングオイルクイックドライ

P9、10、17

一日で乾く速乾性溶き油。濃度高く、ソフトな光沢あり。

ダンマルペインティングオイル

P6~7、9、10、15

古典的処方を率直に再現。スタンドオイル・ダンマル樹脂・テレピンによって、透明性が生きた本格派。

コーバルペインティングオイル

P10、15

コーバル樹脂を導入した古典調本格処方の溶き油。速乾性であり、強い光沢が得られる。



コーバルペインティングオイル



超速乾メディウム

超速乾メディウム

P10、12

絵具に直接混ぜて乾燥を大幅に短縮させる強力なゲル状メディウム。油絵具との混合比率は1:1が標準。



クイックドラインクメディウム

クイックドラインクメディウム

P12、16

ゲル状の描画用メディウムで、速乾性で温和な光沢をもたらす。



クリスタルメディウム

クリスタルメディウム

P11、12

描画用メディウムでコシのあるペースト状。速乾性で艶消し効果。盛り上げを伴う即製描法向き。

描画素材

調合溶き油

ゲルメディウム(チューブ)

速乾性メディウム

塑性メディウム

描画用ニス

加筆用ニス

グレージングバニス

バンドル

ルツーセ

補助材料

定着液

剥離剤

リムーバーK



ストリッパー



フキサチーフ

P13

木炭・鉛筆・コンテ等の、固着性のない色材(時に油画下描き)を画面定着させる素描用材。



リムーバーK

P13
ストリッパーに代わる環境にやさしい絵具除去剤。低臭でほとんど蒸発がない。

画面保護材



ルツーセ



バンドル

グレージングバニス

P10、12、15

透明性にすぐれたベネチアテレピンの導入で、グラッシに適した描画用ニスとなった。そのまま使える。

バンドル

P10、15

合成樹脂を基材とした描画用ニス。乾燥が早く、強い光沢をもたらす。乾性油との併用で塗膜強度が強まる。

ルツーセ

P11

乾いた画面に加筆する際、描きたて当初の光沢を復元し、絵具の画面付着性を高め、作業を容易にする。



タブロー

P6~7、11、12、17

仕上がった画面の保護・仕上げに使うニス。合成樹脂による伝統的な製品で、使用は作品完成後半年~1年。



タブロースペシャル

P6~7、11

指触乾燥段階で塗布できる仕上げニス。温和な光沢が手軽に得られる。タブローより保護効果は弱い。



クリスタルバニス

P14

タブロー同様の利用法であるが、本品はより安定した物性を有している。樹脂溶液としての多様な利用法もある。



グロッシーバニス

P14

仕上げ用ニスとして、光沢効果が得られる。仕上げに用いた場合は、塗膜は強じんだが除去は困難。

画用液の基本的な使い方

制作の手順

おつゆ描き

初期

作品例

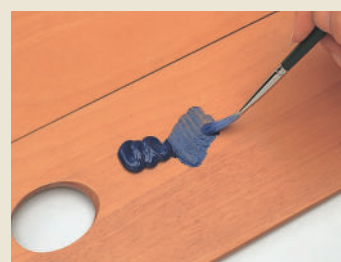


絵具の使い方

- 少量の絵具をたくさんのテレピンで薄めて使います。
- パレットだと絵具が流れてしまうので、ある程度深さのある陶器の皿などの中で、絵具を薄めるとよいでしょう。



- あらかじめ使用する画用液を調整しておく、便利です。
- 画用液を絵具に混ぜる量は筆運びが良くなる程度で、筆先に少し含ませる位です。または、画用液を全く使わなくても大丈夫です。



画用液

ポイント

- 油分の少ない絵具の上に、油分の多い絵具をのせます。
- 油壺や皿に作った調合油は、その都度きれいにして次回描く時に作り直しましょう。
- テレピンは空気に長時間触れると、変質してきます。使用後はすぐに容器を密閉し、暗所に保管してください。
- 油は空気に触れると酸化し劣化しますので、大きい容器に入っているものは、すぐに全部使い切らない限り小さい容器に分けて密閉し、暗所に保管してください。
- 画用液のキャップはしっかり閉める習慣をつけましょう。
- 乾性油分の濃度は仕上げで一番濃くなるようにしましょう。

初級

種類●



テレピン or ペトロール

10

容量目安●
(使用する画用液を10とする)

中級

種類●



テレピン or ペトロール

10

容量目安●
(使用する画用液を10とする)



テレピン
or
ペトロール

+

ネオ
ペインティング
オイル

3~4

:

6~7



テレピン
or
ペトロール

+

リンシード
オイル

8~9

:

1~2

中描き



- 絵具をたくさん使います。この段階で使う画用液によって作品の表情が作られます。
- 画用液は各自の作りたい画面によって、分量を使い分けます。



0~2 : 8~10

仕上げ



- 細部を描き込む時は絵具を画用液で柔らかく溶いて流動性を持たせます。



10

完成後



- 風通しの良い所で絵を乾かします。その後、仕上がりのニス塗ります。表面のみの乾燥では「タブロースペシャル」を、約半年ほどで完全乾燥した絵には「タブロー」を使います。



表面のみ
乾燥



タブロースペシャル

10



3~5 : 3~4 : 2~3



4~5 : 2~4 : 2~3

半年以上
乾燥



タブロー

10

画用液の 効果的な 使い方

たくさん種類がある画用液。
そのどれを選んだら良いか迷ったとき、
どう使うか知りたいときに役に立つスピード検索のページです。
「ああしたい」「こうしたい」「これがわからない」といった見出しを探して
みてください。そこから答えに直接たどりつけます。
画用液をよく知った上級者も、意外な情報が見つかるかもしれません。

	ページ
1 画用液の種類はどうしてこんなに多いのか	9
2 初めての油絵、どの画用液を求めたらよいか	9
3 ペインティングオイル1本で絵は描けるのか	9
4 ネオペインティングオイル、ペインティングオイルスペシャル、ペインティ ングオイルクイックドライ3種のペインティングオイルの違い	9
5 サラッとした溶き油が好き	9
6 少し粘りけのある溶き油が好き	9
7 絵具を速く乾かす画用液	10
8 絵が速く乾いて困る	10
9 仕上がった絵の乾きが遅い。今から乾きを早めたい	10
10 画面にツヤを出したい	10
11 画面をマット（ツヤ消し）にしたい	11
12 部分的に出たツヤを全体に統一させるには	11
13 仕上がった絵にツヤを出したい	11
14 ニスがけの時に完全乾燥は必要か	11
15 完全に乾燥していないが、すぐに展示したい	11
16 絵具の透明性をいかす画用液	12
17 絵具を厚塗りしたい	12
18 絵具を薄塗りしたい	12
19 仕上がった作品を保護したい	12
20 作品を丈夫な画面にするには	12
21 昔描いた作品を保護したい	13
22 下描きした木炭を残しながら絵具をのせたい	13
23 画面の絵具をはがして修正したい	13
24 修復に使用できる画用液は	13

画用液を初めて使う人へ

画用液の種類は どうしてこんなに多いの？

確かに迷うのも、当然ですね。画用液は全体で30種類近くもあります。家庭用塗料で画用液に相当するものは、ペイントの薄め液とハクリ剤くらいしかないので、大変な品数に思えます。しかし、実は油絵具という色材は、成分を分解し、細かくパーツ分けして売っているような設計になっているので、品数が多くなるのです。だからこそ、各個人の目的に合わせ、きめ細かく使い分けができるということにもなります。

初めて描くときに、 揃えておきたい画用液。

数ある画用液ですが、初めて絵を描く方は、まず「ネオペインティングオイル」と「ブラッシュクリーナー」を揃えるといいでしょう。この2種類はスケッチセットに通常セットされています。「ネオペインティングオイル」で絵具を溶いて、「ブラッシュクリーナー」で筆を洗うという、基本用途をカバーできます。「ブラッシュクリーナー」は、少量だとすぐに絵具で汚れてしまうので、500ml以上用意しておきましょう。

「ネオペインティングオイル」を効果的に使うなら、濃度を調節するための「テレピン」か「ペトロール」を加えればよいでしょう。分量などの詳しい使い方はP6の「画用液の基本的な使い方」をお読みください。

「ネオペインティングオイル」があれば絵を描くことはできます。調合にしても、そのまま使えるような濃度バランスに設定されています。しかし、「テレピン」や「ペトロール」で濃度調整すると、それ以上に快適に描画できますし、作品自体の耐久性もよくなります。

一般的に使われる、 3つのペインティングオイルの相違点。

ペインティングオイルとしては5種類あります。その中で一般的なものとしては、「ネオペインティングオイル」「ペインティングオイルスペシャル」「ペインティングオイルクイックドライ」があります。（「ダンマルペインティングオイル」、「コーパルペインティングオイル」については専門的な扱いになりますので、P4～5の画用液の構成図をご覧ください）

「ネオペインティングオイル」や「ペインティングオイル

スペシャル」くらいの濃度ではまだよいのですが、「ペインティングオイルクイックドライ」くらいの高濃度になってくると、それ1本だけで最初から最後まで描くのはむずかしくなってきます。P6～7の「画用液の基本的な使い方」を一度試してみたいかがでしょう。

3種類のペインティングオイルの違い

乾燥速度

遅い			速い
ネオ ペインティング オイル	≦	ペインティング オイル スペシャル	<
			ペインティング オイル クイックドライ

乾いてからの変色（黄変）の度合い

変色しにくい			少し変色
ペインティング オイル スペシャル	<	ネオ ペインティング オイル	<
			ペインティング オイル クイックドライ

筆運び感

サラッと感			まったり感
ネオ ペインティング オイル	≧	ペインティング オイル スペシャル	<
			ペインティング オイル クイックドライ

実際の使い勝手は個人差がありますので、それぞれ大きく違うかそうでないかは一概にいえません。しかし「ペインティングオイルクイックドライ」は早く乾く分だけ、粘りが出ます。

筆運びのいいサラッとタイプと、 粘りのあるタイプ。

画用液の粘性をもとにした選び方として、溶き油の流動性は、筆運びに大きく影響するので重要なポイントです。サラッとしていれば、当然筆運びはよくなります。ペインティングオイルの中では、「ネオペインティングオイル」と「ペインティングオイルスペシャル」は高い流動性があります。サラサラした揮発性油の量が多めで、成分自体にあまり粘りがありません。さらに「テレピン」や「ペトロール」で薄めると、もっとサラサラします。しかし、揮発性油が蒸発していけば、粘度は上昇しますので、画用液の流動性は描画時間とともに変化していきます。

粘り気があると、筆運びが悪いかというところではなく、仕上げに向かう画面構築の上で有効な一面もあります。画用液の粘りとはハチミツ状の粘りです。「ペインティングオイルクイックドライ」「ダンマルペインティングオイル」「コーパルペインティングオイル」が比較的粘りがあります。



ネオペインティングオイル



ペインティングオイルスペシャル



ペインティングオイルクイックドライ

画面の乾燥

7 絵を速く乾かしたい、 そんなときは——

絵具の乾き具合も、画用液選びの重要なポイントです。

速く乾かしたい時は「**超速乾メディウム**」を使います。これはあらかじめ絵具に、1：1の割合で混ぜて使ってください。早ければ3時間、遅くてもひと晩で確実に乾きます。薄め液としては「**テレピン**」がよいでしょう。

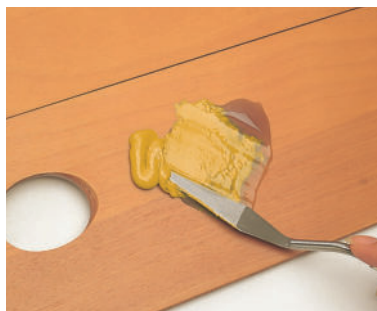
混合作業がめんどうならば、「**ペインティングオイルクイックドライ**」を通常の溶き油として使ってください。

速乾タイプの画用液は、屋外スケッチでは溶剤の蒸発が速いので使いづらいかもしれません。天気の良い日などは、パレット上で絵具があつという間に乾きはじめます。

超速乾メディウムの混ぜ方



絵具に混ぜるメディウムの量は絵具とほぼ同量



パレット上でナイフを使いムラにならないよう、よく混ぜる



絵具のみ



絵具と超速乾メディウム

超速乾メディウムを混入すると、透明感が増します

乾燥促進剤「シッカチーフ」の、 知っておきたい使い方。

絵具の乾燥を中まで進める補助剤として「**ホワイトシッカチーフ**」と「**ブラウンシッカチーフ**」の2種類があります。

「**ホワイトシッカチーフ**」は乾燥促進力はおだやかです。一方「**ブラウンシッカチーフ**」は強力に乾燥を進めますが、シワやヒビ割れといった副作用もありますので絵具と混ぜる際、比率に注意してください。

油壺の中の画用液に混ぜる方法はお薦めできません。

「**超速乾メディウム**」と「**ペインティングクイックドライ**」、**シッカチーフ**は併用しないでください。効果の相乗を期待できないばかりか、思わぬトラブルを引き起こす場合があります。



ブラウンシッカチーフと絵具の量の割合
1：20

8 絵が速く乾いては困る、 そんなときは——

絵具の乾燥をあまり早めたくない時は、画用液の簡単な自作をお薦めします。

「**ポピーオイル3：ペトロール7**」の割合で混ぜたものが、筆運びもよく、長時間の描画に向いています。

既製の溶き油で済ませるなら「**ネオペインティングオイル**」が一番乾燥が遅いでしょう。また「**グレージングバニス**」も乾燥が遅いのですが、蒸発にともなう粘りが出る傾向があります。

9 絵を後から乾かす画用液があればすごく便利ですが、実際は存在しません。長い時間自由に描いて、終わったら一気に乾かすことは、油絵具の乾燥機構上できません。

画面のツヤ

絵にツヤを出したい場合と、 ツヤを抑えたい場合。

10 画面にツヤを出したい、ツヤを保ちたい場合は、樹脂分の多い溶き油ほど、効果が得られます。

「**ダンマルペインティングオイル**」「**コーパルペインティングオイル**」「**パンドル**(使い方)に注意が必要)」などを使うとよいのですが、ツヤは画用液選びよりも使い方のほうがポイントになってきます。テクニ

カル情報「光沢の出し方」をご覧ください。

画面をマット(ツヤ消し)にしたい場合は、「クリスタルメディウム」が効果があります。描き出す前に、絵具とよく混ぜておいてください。薄め液は「テレピン」を使い、混ぜる比率は任意でかまいません。多く混ぜるほどツヤ消し効果は上がりますが、色が薄くなりますのでご注意ください。

大切なのは、混ぜる比率を色によってまちまちにせず、一定にしておくことです。この「クリスタルメディウム」を混ぜた絵具は、乾いてからの塗り重ねがあまり効きませんので、一気に描きあげるとよいでしょう。

メディウムを使わずにツヤを抑えるには、「テレピン」や「ベトロール」などの揮発分の多い油を使えばいいのですが、あまり薄めすぎると絵具の固着に影響しますので、薄塗り以外にはお薦めできません。

部分的に出たツヤを、全体に統一させるには。

油絵の画面は、時間とともにツヤがひけて行く傾向にあります。全体に進行すればいいのですが、部分的にツヤがひいたり、残ったりすることがよくあります。それを修正する代表的な画用液が「ルツーセ」と「タブロー」です。

「ルツーセ」は一時的にツヤを均一化して「描き加え」を容易にする画用液、「タブロー」は長期的に働く画用液です。両方ともツヤがあります。

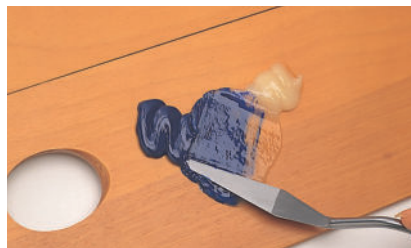
2種類とも絵具が生乾きの時には、使わないでく

クリスタルメディウムの混ぜ方

11



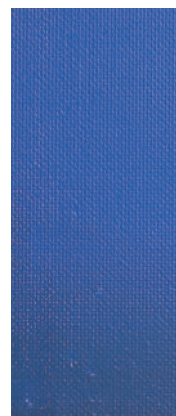
絵具とメディウムをパレット上にしぼり出す



パレット上でナイフを使いムラにならないよう、よく混ぜる



絵具のみ



クリスタルメディウムを混ぜてツヤがひいた状態

12

ださい。「ルツーセ」は指で触れて絵具がかちっと乾いてから、「タブロー」は乾いてから半年以上経ってから使ってください。

13

早い時期に画面のツヤがバラバラになった時に便利な画用液は、「タブロースペシャル」です。これは指で触れて、絵具がつかない状態であれば使えます。少し柔らかい光沢面になります。完全に乾燥していないが、すぐに展示したい場合にこの方法を使います。

14

15

テクニカル情報

光沢の出し方

おつゆ描きから中描きにかけてはP6~7の「画用液の基本的な使い方」通りに絵具も画用液も使用します。あまり乾性油は早い段階で使わないようにしましょう。中描きから徐々に乾性油を使いますが、この時に「スタンドオイル」を少しずつ混ぜていきます。仕上げ段階に近くなったら、「スタンドオイル」や「ベネチアテレピン」を「テレピン」などの揮発性油に混ぜながら使しましょう。

あまり仕上前に加工乾性油を混ぜすぎると上にのせる絵具をハジいてしまうことがあるので注意してください。作品がほぼ完成したら最後に柔らかい刷毛などで「スタンドオイル」を少量の「テレピン」で薄めて筆はこびを良くしながら、1~2回画面の表面を傷つけないように塗ります。刷毛跡が残って気になる場合は「ベネチアテレピン」を混ぜると良いでしょう。しかし、注意点として時間経過と共に多少黄変の可能性があります。



Q

透明性について

16 絵具特有の透明性を生かすには？

ツヤの他に画面の演出効果として、油絵特有の「透明性」があります。

「グレージングバニス」は、最も効果的な画用液で、ガラスに匹敵する透明な効果を出す溶き油です。「超速乾メディウム」「クイックドライグメディウム」「クリスタルメディウム」も、混ぜる量が多くなれば透明になります。

絵具の厚塗りと薄塗り。

絵具が厚く塗られているか、薄く塗られているかでも画面効果は異なります。しかし、専用の画用液というものは特にありません。

17 補助剤としては、厚塗りの時に「クリスタルメディウム」があります。絵具の硬さをあまり変化させることなく、適度な強度を与えてくれます。使い方はP11をご覧ください。

18 薄塗りの場合には、絵具自体の透明性が関連してくる場合があります。不透明な薄塗りにしたい場合は画用液よりも、絵具の選択次第となります。（絵具には色によって透明、半透明、不透明と表示してあります。）

Q

画面の保護

19 仕上がった作品を保護したり、丈夫な画面にするには？

完成した絵をしっかりと保存したい時、仕上げ用のニスとして「タブロー」を使うのが一般的です。

一度に原液を厚く塗るよりも、2割くらいの「テレピン」や「ベトロール」で薄めたものを、2回塗りした方がうまくいきます。

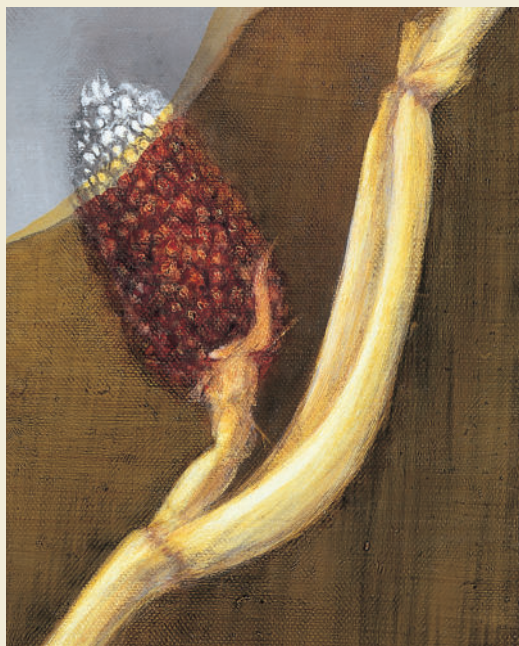
20 ただし作品を丈夫にするのは、作画プロセスで決まりますので、「タブロー」はその後の保護、いわゆる汚れ防止膜のようなものに過ぎません。

「タブロースペシャル」は保護作用が弱く、画面効果調整剤の性格が強い製品です。

「タブロー」は、絵ができ上がって半年以上経ってから塗るのがよい方法です。何年も経って



タブローを少量のテレピンで薄めて使う



テクニカル情報

グレイズを重ねる方法

描き始めから中描きにかけて画用液はほとんど使わずに描きます。チューブから出した状態の絵具のみで描き進めますが、筆運びが悪く絵具の伸びが悪い場合は、少量の「テレピン」で絵具をのばして使います。

作品がある程度形になってきたら、各自の好みのタイミングでグレイズしていきます。グレイズの方法としてはごく少量の絵具を多量の「グレージングバニス」でのばし、柔らかい筆で薄く画面にかけます。絵の表面が指で触って乾燥した状態でそのつどグレイズすると何層も重ねることが出来ます。

紹介している作品は「グリザイユ技法」といい、モノトーンで画用液をほとんど使わずに多少凹凸を絵具でつけて描き、その上からごく薄く4～5回グレイズを重ねたものです。

から使おうとする場合、たいてい絵が汚れています。そのままニスがかけると、汚れを閉じ込めてしまいますから、「テレピン」を含ませたきれいな布で、画面をきれいにしてから塗ってください。

フキサチーフは、 保護剤というより定着剤。

定着剤として「フキサチーフ」という画用液があります。

「フキサチーフ」は軽くて微細な粒子を画面に固定させる画用液で、保護剤というほどのものではありません。主に木炭画やパステル画に使われます。木炭で下描きをして、これを「フキサチーフ」で仮固定してから油絵具で描き込んでいく描き方があります。

ただし、画に木炭粉が残るものはあまり好ましくないため、油絵は油絵具だけで構成する方がよいでしょう。

画面の修正と修復

仕上がった絵の、 ある部分を直したいとき。

「仕上がったがどうも気に入らない部分があって修正したい」、「絵具は乾いてしまっている」、「用具の掃除をすっかり忘れていて絵具が固まってしまった」など、このような場合、修復とは反対に画面を壊す画用液である「リムーバーK」を使用します。

古キャンバス全体を剥がして再生させるのはお薦めしません。労力と結果を考えれば、新しいキャンバスを買った方がいいでしょう。

「ストリッパー」は同じように使える、より強力な剥離剤です。しかし、毒性が強いうえに揮発性も高いので、極力換気の良いところで注意して扱わなければなりません。60°C以上に熱せられると有害ガスを発生しますので、熱源の近くで使ってはいけません。

その点「リムーバーK」は人と環境への負荷が小さく安全な製品です。

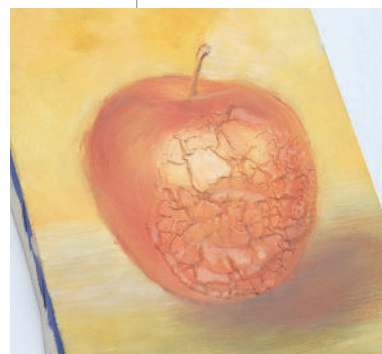
傷んだ絵の修復は、 まず専門家に相談を。

古い絵は傷んでいる場合があります。部分的に割れかけているとか、絵具全体がもろくなっていたとき、画

21 リムーバーKを使って画面の一部を剥がす

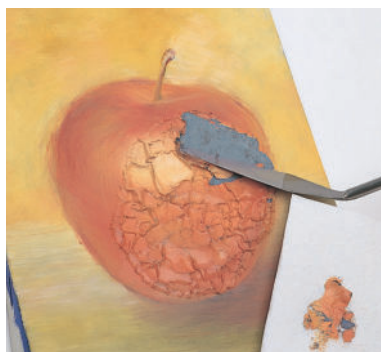


ナイフや筆で剥がしたい部分にリムーバーKを塗る

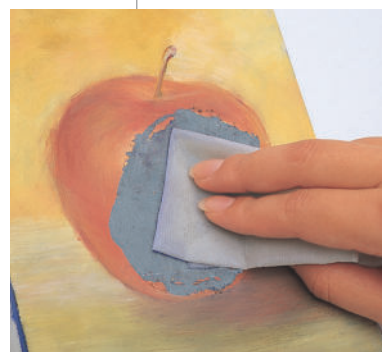


15分程度で絵具がふやけて浮いてきます

22



ナイフで浮き上がった絵具をかき取る



画面に残った絵具を布や紙でふき取る

面にニスがかけると悲惨な結果になりかねません。ニスかけをやめて専門の修復家に相談してください。

その他画用液の特長

「リンシードオイル」

「ポピーオイル」

「リンシードオイル」は「ポピーオイル」よりも乾きが速く、塗膜が丈夫だが黄変しやすい。「ポピーオイル」は「リンシードオイル」よりも乾きが遅く、塗膜は少し弱いですが黄変しにくい、という性質を持っています。

寒期には沈殿物ができることがありますが、使用には差し支えありません。オリジナル画用液を作るアイテムです。

「スタンドオイル」

「サンシクンドリンシードオイル」

「ブラックオイル」*

いずれも粘度のある油で、オリジナル画用液用アイテムです。強い光沢と丈夫な塗膜を作る性質は似ていますが、特に「サンシクンドリンシードオイル」は卵を使ったエマルジョンに使用する場合に向いています。

*詳細は別途資料をご覧ください。

「ダンマルバニス」

「マスチックバニス」

「クリスタルバニス」

全て樹脂を溶剤で溶かした画用液で、他には何の添加物もありません。溶剤の蒸発とともに乾きます。

「ダンマルバニス」、「マスチックバニス」は天然樹脂で、「クリスタルバニス」は合成樹脂です。ともにオリジナル画用液用アイテム。特に卵エマルジョンに使用されます。「タブロー」同様、保護用ニスとしても使えます。その際ニスがハジかれる場合がありますが、無水エタノールか燃料用アルコールを10%程度添加すると緩和されます。また、「ダンマルバニス」の白い濁りも透明になります。

「ベネチアテレピン」

天然樹脂。樹木から搾取されるヤニ状物質(バルサム)をほぼそのまま製品化しています。揮発成分は5~10%、ガラスに近い透明な塗膜を形成し、筆あとを残さずに横広がり伸びていく性質があります。

乾燥は遅く、黄変、もろさを伴う塗膜になるので、たいていは他の樹脂と併用されます。オリジナル画用液用アイテム。

「グロッシーバニス」

アルキド樹脂を使用した強い光沢を有するニスで、乾燥後は「テレピン」や「ペトロール」では溶かせません。仕上用ニスとして使う場合は、この点にご注意ください。

また、下の絵具の乾燥が不十分だと、下層を溶かす場合がありますので、描画用に使う場合は溶き油として使うより、絵具に少量直接加えて、光沢と強度をつけ加えるような使い方がよいでしょう。

この画用液は多量の「テレピン」、「ペトロール」で薄めるとゲル化、沈殿しますから、あまり薄くない方がよいでしょう。

「テレピン」

「ペトロール」

揮発性溶剤のスタンダードです。あまりにオーソドックスな存在なので、これさえあれば絵を描けると思っている人もたまにいますが、危険をはらんでいますのでP6~7「画用液の基本的な使い方」を読んでください。

「テレピン」が光や空気的作用で変質することは、わりとよく知られていますが、「ペトロール」も若干変質します。あまり古くなって色やにおいに変化があるものは使わないでください。

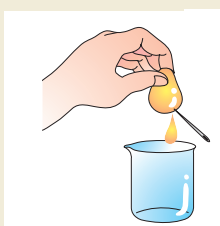
テンペラと油絵具の併用

テクニカル情報

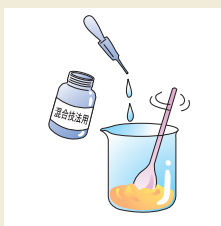


油絵具で描いた作品の上にテンペラ(混合技法)絵具をのせると、発色や絵具の伸びの違いで表現の幅が広がります。油絵具はツヤがあって伸びがよく、色に深みがあるのに対してテンペラ絵具は明るい発色で光沢が少なく、硬さのある表現となります。油絵具が指で触って乾いている状態で、上からテンペラ絵具をのせます。テンペラ絵具は各自でそのつど作るようになります。卵から絵具を作る場合の一例を紹介します。新鮮な卵の卵黄の皮を取り除いた卵黄の中身のみを使用します。ティースプーンで軽く黄身を混ぜたあと、「混合技法用画用液」をティースプーン2~3杯程度入れてマヨネーズ状になるまでよくかき混ぜます。そこに水(酢)を1滴ずつ入れてよくかき混ぜながらティースプーン1杯加えます。黄身と油と水(酢)が馴染んできたら、最後にスプーン1~3杯の水(酢)を入れてメディウムは完成です。あとはこのメディウムと顔料を1:1程度の比率で混ぜながら絵具を作ります。興味のある方は当社商品「テンペラキット」に入っているテンペラ技法解説書をご覧ください。

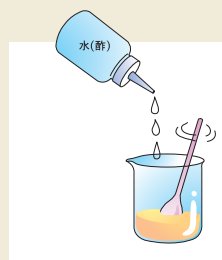
卵黄を指でつまみ、針のようなもので穴を開け、中味を取り出します。(卵黄には薄い膜があり、それを取り除きます。)



取り出した卵黄の中味に「混合技法用画用液」を少しずつ加え、よくかき混ぜます。



マヨネーズ状になったら、水(酢)をスポイトなどで一滴ずつ加えてかき混ぜます。



「ダンマルペインティングオイル」

「コーパルペインティングオイル」

「グレージングバニス」

この3種類は古い処方をもとに作られた溶き油です。古典技法の文献でダンマル樹脂、コーパル樹脂、「ベネチアテレピン」を使った技法に眼が止ったら使ってみてください。各樹脂と「スタンドオイル」、「テレピン」を組み合わせたつくりになっています。

「グレージングバニス」についてはP12の「透明性について」をご参照ください。

「バンドル」

比較的知られた描画用ニスです。合成樹脂が20%くらいの溶液で、リンシードなどの乾性油は少ししか入っていませんから、黄変が非常に少なく、光沢が豊かです。

乾きもスムーズであるかわりに、乾いた塗膜の柔軟性に乏しいので、単独で使うことはあまり薦められません。オリジナル画用液用アイテムといっってよいでしょう。

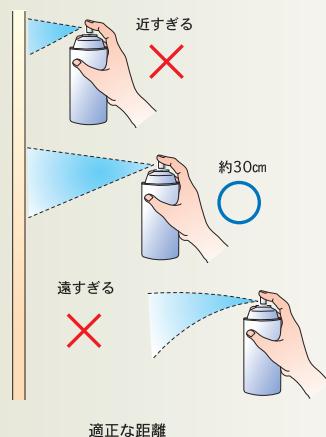
「クイックドラインゲメディウム」

クイックドライの名がついていますが、「超速乾メディウム」の出現で準急くらいの位置になります。

エアゾール画用液の使い方

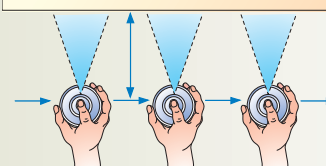
1.画面からの距離

吹き付けるときは、画面から30cm程度離してください。近すぎると一部分に画用液が多くかかりすぎ、画面の絵具などが流れます。逆に遠すぎると十分に画面に届きません。



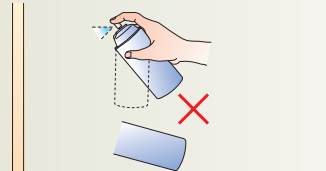
2.吹きつけ方法

画面に対して正しい距離を保ち、平行に動かして吹き付けてください。このときエアゾール缶を傾けないようにしましょう。



3.使用後に

使い終わったら目詰まりを防ぐため、逆さにして空吹きし噴出口に付いている画用液を、布などできれいに拭き取りましょう。保存するとき、噴霧口に液がつかないように、横にしないで立ててください。



金箔の貼り方

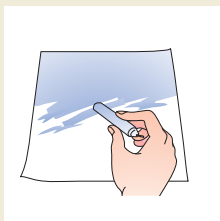
テクニカル情報



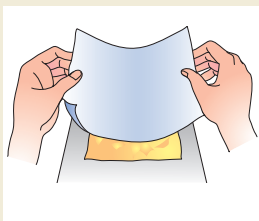
絵の表面の絵具がまだ乾いていない場合は、画用液は何も塗らずに絵具の上に直接金箔をのせて下さい。画面が完全乾燥している場合は、金箔を貼りたい箇所に「コーパルペインティングオイル」を刷毛などで塗り、少し乾燥させて表面がまだベタベタしている状態で金箔をのせてください。

金箔の扱い方として簡単な方法をご紹介します。適当な大きさに切った紙（薄い紙ならどんなものでも良い）にロウソクを全体にまんべんなくこすりつけます。この工程はかなりしつこく行います。紙にしっかりとロウソクが付着したら、金箔の上に空気が入らない様にそとがかぶせます。金箔が紙にしっかりと貼りついたら、はさみで金箔を自由な形に切ることが出来、切った金箔付きの紙を画面に貼れば簡単に作品に応用出来ます。

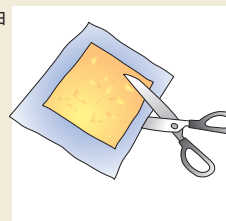
薄い紙にロウソクをよくこすりつけます。



空気が入らないよう金箔にそと紙をかぶせて、くっつけます。



ハサミで金箔を自由な形に切ります。





クイックドライイングメディウム

た。厚く塗るとちりめんジワが寄る心配があるので、薄塗りで使ってください。このメディウムは、「ネオマチエール」や「ストーンマチエール」の接着剤として使うのに適しています。

「ブラッシュクリーナー」

「無臭クリーナー」

「ブラッシュクリーナー DX」

いわずと知れた油絵用の筆洗液です。

「ブラッシュクリーナー」は「ペトロール」と同じく石油系溶剤ですが、用途を筆の洗浄に特定しています。

「無臭クリーナー」は洗浄力はおだやかですが、気になる溶剤臭がありません。芳香族という成分を含んでいないので、「ブラッシュクリーナー」より有害性が低くなっています。

両方ともうまく使うコツは、おしまずに新鮮なものを使うことです。汚れた水で洗濯をしないことと一緒に。あまり汚れていなくても変色したり、粘ってきたり、ニオイが変わってきたら取り替えてください。

「ブラッシュクリーナー DX」は、洗浄力を高めた強力バージョンです。さらに筆を保護するリンス剤を配合してあります。

なお、筆洗液で家具や家電製品類の塗装部、プラスチック部に付着した油絵具のふき取りはできません。もちろん手指や衣服の洗浄もおやめください。



ブラッシュクリーナー



無臭クリーナー



ブラッシュクリーナー DX

「ブラシソフター」

筆をきれいに洗った後は、この「ブラシソフター」につけてから洗い流せば、筆が長持ちします。手軽に使える毛筆用トリートメント剤です。



ブラシソフター

クイックドライイングメディウムの使い方

蒔絵式



1
メディウムを少し厚めに画面に塗る



2
メディウムが乾くまえに上からネオマチエールをふりかける

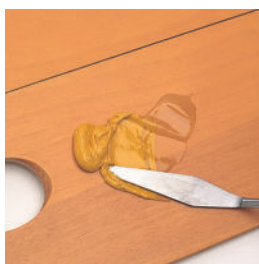


3
乾いたら付着している余分なネオマチエールを落とす

練り込み式



1
絵具に直接メディウムを混ぜる



2
ムラにならないようナイフを使ってよく混ぜる

絵具に亀裂が入ってしまった。

■基底材から

●1層目からジンクホワイトを使っていますか?油と反応して金属石けんを作ってしまうジンクホワイトは、下地から使用すると亀裂の原因

となります。

●絵具を極端に厚塗りしたり、上層の絵具に乾燥促進剤を多く使っていないですか?一度に絵具を厚塗りしたり、下と上の絵具の乾燥速度が大きく違うと亀裂の原因となりますので避けましょう。

●絵具の油抜きをしてそのまま使っていないか?顔料に対して油分が少なくなると、画の塗膜が弱まりますので、塗膜を強化する乾性油分を多くしましょう。またテレピンのみで描き進めていると、亀裂の原因にもなります。

■絵具表面のみ

●下塗りの絵具が乾燥不十分のまま上に絵具をのせると、起こりやすくなります。絵具の油分の少ない上に、油分の多い絵具をのせるようにしましょう。調合油やアルキド樹脂を含む画用液を使うのもよいでしょう。

絵具がハクリした。

■基底材から

●湿度の高いところで描いたり保管したりしていませんか?キャンバスはきちんと乾燥したものを使用しましょう。

●キャンバスの表面が汚れたまま描いていませんか?使用前にキャンバスの汚れをきれいにふき取り、きちんと乾燥させてから使用しましょう。

■絵具表面のみ

●油絵具の助剤として使われるロウや、金属石けん、シッカチーフに含まれる乾燥促進剤などを多く使ったり、ジンクホワイトを多く使っていないか?これらは画面の表面に浮き出やすく、絵具の固着力を疎外する恐れがあります。画面の表面を揮発性油などでふき取るか、サンドペーパーで荒らしたり、凹凸をつけながら絵具をのせます。

剥がれた絵具層は全て除去してから次の絵具をのせるか、ひどい場合は専門家に依頼しましょう。

色が変色してきた。

■黄変

●乾性油(加工)を多く使っていないか?これらは絵具に色がつきやすく、黄変の原因にもなります。

●作品を長期間暗い場所に保管していませんか?暗所に作品を保管すると油が変質して黄変します。黄変が気になりだしたら、30分~1時間程度日光浴させましょう。

■褪色(たいしょく)

●耐光性の弱い絵具を使用していませんか?これは顔料に原因があり、チューブラベルに表示されている「耐光性」を確認し、星の数が多い耐光性が強いものを選ぶと防げましょう。

絵具表面にちりめんシワが寄った。

乾燥剤を多く使っていないか?絵具に乾燥剤をたくさん混ぜるとシワが寄ります。また、下の絵具が生乾きの状態で上にのせる絵具に乾燥を促進させるものを入れた場合でも起こりやすくなります。乾燥速度の差で表面の絵具が縮んで、細かいシワが寄ることがあります。シッカチーフ類やアルキド樹脂など、乾燥を促進させるものを混ぜた絵具を使う場合、下の絵具層をきちんと乾燥しているか確かめましょう。

タブローをかけすぎて、べたべたになった。どうすれば元にもどる?

心配だからといってかけ過ぎはよくありません。タブローの成分は大半は樹脂分のできており、かけ過ぎると表面がべたべたになります。揮発性油を柔らかい布などに浸し、軽く拭き取った後、きちんと乾燥させ、再度1~2回程度タブローを塗りましょう。

古い作品がホコリやヤニで汚れてしまったが、きれいにするには?

きちんと作品を保存していても、ホコリや黄変などは免れられません。定期的なケアが必要になります。揮発性油を柔らかい布などに含ませ、軽くふき取ります。きちんと乾燥させた後、タブローで保護します。ガラス付きの額でヤニやホコリはある程度防げるでしょう。

絵具やニスを上塗りする時に、はじかれてノリが悪くなった。

乾性油分が多くなりすぎていませんか?下地に油分が吸収していくことで絵具が定着していきませんが、多すぎる油分は下層の油分が飽和状態になり、余った油が表面に浮き出て、絵具が画面上で滑って(のらなくなる)しまいます。また、平滑な画面も絵具の食いつき(定着)を阻害するので、サンドペーパーで表面を荒らす処理が必要です。

ツヤが出ず、いつまでもカサカサな画面。

揮発性油を多く使っていないか?テレピンやペトロールなどは時間が経つと、揮発して画面にほとんど残りません。ですからテレピンやペトロールだけで描くとツヤが引けた画面となり、光沢はあまり出ません。しかも画面の塗膜がもろくなり、亀裂や剥離の原因にもなります。光沢をもたせ、かつ塗膜を強化するためには、乾性油分を増やしてください。

テレピンを長期間保存していたら、ドロツとして黄変した。

日の当たる場所に置いたり、容器のフタが開いた状態になっていませんか?テレピンは空気や日光に晒されると変質し、変色や粘性が出てきます。暗所で容器から空気を遮断して保管しましょう。

ペインティングオイルクイックドライを途中まで使用して放置していたら、ゲル化した。

容器のフタをきちんとしなくても速乾性のペインティングオイルは瓶の中の空気によって固まってしまうことがあります。早めに使い切りましょう。

油壺の中に画用液を入れっぱなしにしていたら、色が変わった。

油壺に画用液を入れたら、その日のうちに使い切るか、残っていたらきれいにふき取りましょう。油は空気に長時間触れると変質しますので、性能も落ちてきます。油壺は画用液の保存に適していないのです。

画用液のニオイが変化した。

油は空気に触れると酸化して変質します。その時にニオイも変化が起こります。目で見て変化したり、ドロツとしてきたり、ニオイがひどくなったら、使用を避けてください。



使用中は子供の手の届かない所に置いてください。また、使用後はキャップをきちんと閉めて、子供の手の届かない所に保管してください。



絵具や油類が皮膚に付いた場合は、完全に除去して石ケンなどで洗い流して下さい。絵具使用後は手をよく洗って、絵具が残っていない事を再度確認してください。

絵具が皮膚に付着した場合の有害性についての正確な情報はありません。眼や傷口に入った場合は別として、通常の皮膚への刺激はごく弱いものである事は確かですから、石けんと流水による洗い方で充分です。溶剤を含む画用液は皮膚の乾燥、ひび割れ、皮膚炎をおこす場合があります。着衣にこぼした場合は溶剤と皮膚の接触時間が長くなりますから、すぐに着替えてください。

眼に絵具や画用液が入ったら、絶対にこすらずに、きれいな流水で15分以上洗眼してから眼科医の手あてを受けてください。爪先についた絵具はブラシなどでこすると、かえって爪の間に絵具を押し込めてしまう事があるので注意しましょう。



絵具や、エアゾール（スプレー）、エアブラシなどを使用する時は、部屋の換気や通気をよくしてください。



絵具や油類のついた紙や布は、よく注意して捨ててください。シッカチーフ入りの油や、調合油のついた紙や布は発火する恐れがありますので注意しましょう。（安全な処理方法：水を含ませて捨てる。すぐ焼却する。金属容器などで密閉して廃棄する。）

これは、油が空気に触れて乾燥する際の反応熱です。普通はその熱は空気中に発散されるのですが、ゴミ箱に多量に押し込んだりすると、熱が発散しきれず、「こもる」状態になり、発火点まで達すると燃え出します。



絵具を使っている時は、飲食、喫煙はしないでください。

絵具でよごれた手で目をこすったり、傷口に絵具がつく事はさげましょう。

画用液を誤飲した場合、無理に吐かせないでください。肺に入ると炎症をおこすおそれがあります。すみやかに医師の処置をうけましょう。



エアゾールの作業（スプレー）や、顔料、エアブラシなどを使用するときは換気をよくし、長時間の作業に及ぶ場合は保護マスクをしてください。サンドペーパーなどを画面にかけるときも、絵具の粉が舞う恐れがありますので、同じように保護マスクをしてください。



絵具や画用液を使用するとき、またはエアゾール式のニス類や定着液を噴霧するとき、炎の出ている場所、または、高温になる器具の近くで使用しないでください。



画用液の使用後はピンの口をふいて、キャップは完全に閉めてください。ビン、缶類は中身を使いきってから廃棄してください。


画用液をビンからビンへ補充される時は、満杯に入れないでください。膨張してビンが割れる恐れがあります。


誤飲・吸飲、皮膚への付着による腫れ、ただれなどの傷害、その他、体の不調が表れた場合などは、すみやかに医師の処置をうけて下さい。

画用液のラベル表記

画用液の成分中には有害物質や引火性物質を含んだ製品が多くあります。これ等の物質を規定量以上含んだ製品には、シンボルマーク、警告文をラベルに記載し、取扱時の注意をお願いしております。ご使用前に必ずお読みください。

【シンボルマーク】

 人体に対して有害なもしくは有害な恐れのある物質を含んでいる製品に表示しております。
有害性あり

 引火性危険物であることを示しています。
引火性あり

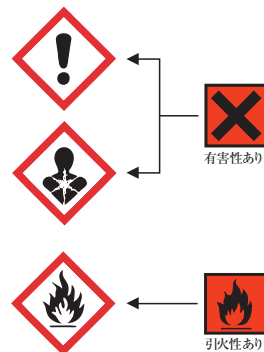
※クサカベ製品において上記表示があたりまです。

【警告文】

警告 が付いた製品には、対象となる有害物質名や取扱上の注意事項を記しています。警告文は、有害性物質の種類により異なります。

【GHS絵表示】

【従来表示】






※クサカベ製品は順次GHS表記に変更されます。

クリーナーの廃棄について

※作業は換気の良い場所で行ってください。

- ① 汚れたクリーナーの中身を、ポリエチレン袋（一般のごみ袋など）に丸めた新聞紙や布、紙タオルなどを入れたものに流し込みます。
- ② ①で流し入れたあと、中の新聞紙などに残った絵具カスは新聞紙ごと取り出し、「不燃ごみ」に捨てます。
- ③ ポリエチレン袋にたまっている残りの溶剤には、さらに新聞紙などを入れて吸収させてから、袋ごと「燃えるごみ」に捨てます。
- ④ 空になったクリーナーの容器は、「不燃ごみ」あるいは各自自治体の指示に従って処理します。

別の方法

- 1) 容器の上澄みだけを新聞紙などにあげる 
- 2) 残った絵具カスを別の新聞紙にあげる 
- 3) 絵具カスが少し残ってしまった容器 

※各教育機関での使用について：
廃液は「特別管理産業廃棄物」に該当

■価格表

(単位:円)

分類	品名	シリーズ	ラインナップ						
			55ml	250ml	500ml	1,000ml	1,800ml		
			税込価格	税込価格	税込価格	税込価格	税込価格		
基本素材	造膜素材	乾性油	リンシードオイル	C	550	1,815	3,300	5,940	10,285
			ポピーオイル	G	1,485	5,170	8,910	16,170	28,160
		加工乾性油	スタンドオイル	C	550	1,815			
			サンシックスドリンシードオイル	E	858				
			ブラックオイル	E	858	3,025			
		天然樹脂	ベネチアテレピン	H	2,420				
	樹脂溶液		ダンマルバニス	C	550	1,815			
			マスチックバニス	H	2,420				
	溶剤	揮発性油	テレピン	C	550	1,815	3,300	5,940	10,285
			ベトロール	A	440	1,452	2,530	4,730	8,250
描画素材	乾燥促進剤	ホワイシッカチーフ	C	550	1,815	3,300			
		ブラウンシッカチーフ	C	550	1,815	3,300			
	調合溶き油	ネオペインティングオイル	B	484	1,573	2,904	5,280	9,075	
		ペインティングオイルスペシャル	C	550	1,815	3,300	5,940	10,285	
		ペインティングオイルクイックドライ	C	550	1,815	3,300	5,940	10,285	
		ダンマルペインティングオイル	D	726	2,420				
		コーパルペインティングオイル	D	726	2,420				
	ゲルメディウム (チューブ)	速乾性メディウム	超速乾メディウム	-	45ml 825	100ml 1,485			
			クイックドラインゲルメディウム	-	50ml 825	110ml 1,485			
		塑性メディウム	クリスタルメディウム	-	50ml 825	110ml 1,485			
	描画用ニス	バンドル	B	484	1,573	2,904			
		グレーシングバニス	D	726	2,420	4,400			
加筆用ニス	ルツーセ	B	484	1,573	2,904				
画面保護材	完成ニス	タブロー	B	484	1,573	2,904			
		クリスタルバニス	B	484	1,573	2,904			
		タブローズスペシャル	F	1,034	3,630	6,050			
		グロッシーバニス	D	726	2,420	4,400			
補助材料	定着液	フキサチーフ	A	440	1,452	2,530			
	油絵具剥離剤	ストリッパー	C	550	1,815	3,300			
		リムーバー-K	-	100ml 660	250ml 1,320				

■エアゾール製品

(単位:円)

用途	品名	容量	税込価格
木炭、鉛筆、コンテ用定着液	ミニフキサチーフ	100ml	935
	フキサチーフ	220ml	1,320
	徳用フキサチーフ	420ml	1,815
パステル用定着液	ミニパステルフキサチーフ	100ml	935
	パステルフキサチーフ	220ml	1,430
デザイン用定着液	ミニグラフィックス	180ml	1,320
	グラフィックス	300ml	2,090
加筆用ニス	ルツーセ	220ml	1,430
完成ニス	タブローズスペシャル	220ml	1,650

■その他

(単位:円)

用途	品名	容量	税込価格
筆毛保護剤	ブラシソフター	90ml	825

■ブラッシュクリーナー

(単位:円)

	100ml		150ml	250ml	280ml	500ml	1,000ml	2,000ml
	G-100 タテ型	K-100 ヨコ型						
	税込価格		税込価格	税込価格	税込価格	税込価格	税込価格	税込価格
ブラッシュクリーナー	495	550	594			1,100	2,090	3,850
無臭クリーナー	550		660			1,320	2,420	4,675
ブラッシュクリーナーデラックス*ガラス瓶製品				935		1,815		
水性クリーナー(3倍濃縮)/アトリエの洗剤					880			

※2025年1月現在



OIL&VARNISH



株式会社 クサカベ

〒 351-0014 埼玉県朝霞市膝折町 3-3-8

TEL.048-465-6661 (代表) FAX.048-465-7756

<https://www.kusakabe-enogu.co.jp>

